

【図21】伝統的な舞台芸術団体の構造的な助成、及び収益性の比較 ①

	アメリカ	イギリス (日本*)	フランス/オランダ/ドイツ
助成 / 年間収入 (寄付除く)	約10%	約40%	約85%
助成 / 年間収入 (寄付含む)	約40%	約45%	約85%
助成されている芸術団体の本業収益 / 総収入	約50%	約50%	約15%
産業内の不公正さ① (革新について)	少ない助成のため生産コスト下げる事を促進 →助成されない領域でも革新が起きる →産業内での不公正さが少ない	中間であると考えられる**	助成により生産コストを釣り上げる →助成されない領域での革新を間接的に妨げる →産業内での不公正さがある
産業内の不公正さ② (競争について)	完全自由競争に近い、競争は歪められない →競争力がある	中間であると考えられる**	公共性の高い、共存である。競争は歪める。 →競争力が少ない
産業内の不公正さ③ (市場について)	助成が少ないので、助成による優位性は少ない	中間であると考えられる**	助成された芸術は市場において優位性をもつ
産業内の不公正さ④ (革新の事例)	ポップミュージックの革新性	ポップミュージックの革新性 (日本:アニメ・J-POP・ゲーム*)	ポップミュージックは輸入が多い
助成された団体の行動	コストを削減する技術や革新の導入	中間であると考えられる**	コストを削減する技術や革新の導入を思いとどまらせてしまう

(出所) ハンス・アピング著『金と芸術-なぜアーティストは貧乏なのか?』(grambook, 2007):292-298, 367-372より抜粋。図表は筆者作成。

\* () 内の日本部分は筆者にて追記。日本はイギリスに近い構造のため、イギリス部分に明記した。

\*\*部分は筆者による追記、各割合を考慮し中間と明記した。